

## II 学校教育

# 学 校 教 育

## ◆ 学校教育の視点 ◆

学校教育に求められているものは、幼児・児童・生徒が人間として生涯にわたって心豊かで、力強く生きぬくための基盤となる能力を育成することと、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を図ることである。

各園・学校においては、基礎的、基本的な内容を重視し、個に応じた指導を充実するなかで、幼児・児童・生徒の個性を伸ばす教育を行うとともに、公共の精神を養うことが大切である。そのために園・学校や地域に応じて、創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成して、子供が自他を敬愛し、喜んで通うことのできる、安全で魅力ある園・学校づくりを目指す。

「教育は人なり」の至言のごとく、岡崎の教師は、教育者としての使命感に燃え、全園・全校一致の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた師弟関係を築き、家庭と地域と園・学校とが協働して信頼される教育の創造に努める。

### 指導の重点

- 学ぶ楽しさを実感し、学び続けるための「確かな学力」を育む教育の推進
- 命の大切さを自覚し、「ふるさとを愛する心」を育む教育の推進
- 自らを律し、たくましく生きる「健やかな体」を育む教育の推進

## ◆ 平成25年度研究発表会・授業公開 ◆

月日	曜日	日程	学校名(委嘱等)	研 究 主 題	領 域
10/11	金	午後	本宿小学校 (自主)	生きる力を育む小学校英語の創造2013 -英語が話せる本宿っ子をめざして-	英語活動
10/16	水	午後	常磐南小学校 (岡崎市)	未来へつなごう！常南のころ - E S Dの視点に立った教育活動の展開-	E S Dプロジェクトの推進
10/22	火	午後	葵中学校 (授業公開)	I C Tを積極的に活用した授業	全教科
11/13	水	午後	竜海中学校 (自主)	自ら学び、表出する生徒の育成 -コミュニケーションを取り入れた 教科学習を中心に-	全教科 特別支援教育
11/22	金	午後	六ツ美中部小学校 (岡崎市)	明るい未来をひらく六ツ美中部の子の育成 -環境学習を基盤にしたE S Dの推進-	E S Dプロジェクトの推進
2/14	金	午後	連尺小学校 (授業公開)	コミュニケーション能力を生かした算数 科の授業づくり	算数科

## ◆ 新たな教育への挑戦 ◆

### 英語教育の充実

小学校において、文部科学省より教育課程特例校の指定を受け、1年生から6年生までの英語活動の時間（週一こま）を新設した。毎日8分間、ネイティブスピーカーの英語に触れることができるように、英語ビデオ教材の視聴を行う。また、特別委員会「英語が話せるおかざきっ子研究委員会」を設置し、小学校1年生から中学校3年生までの9年間の英語指導カリキュラムと中学生の副教材「Our City OKAZAKI」の効果的な活用方法を研究する。さらに、児童・生徒の英語によるコミュニケーション能力を高めるために、ALTとの協同授業を、中学校では週一度、小学校では学校の実態に応じて週に一度から月に一度程度、会話を中心とした英語を学べる環境をつくる。小学校では、地域の英語が堪能な方を、小学校英語支援員として派遣し、授業の充実を図る。

### 環境教育の推進

岡崎市では、平成22年度に「岡崎市環境学習プログラム」を作成し、小学校、中学校すべての学年において、環境教育に系統的に取り組んでいる。これは、全国初の試みである。近年、環境問題は大きくクローズアップされている。21世紀は環境の世紀とも言われる。私たちは、この問題を解決し、かけがえのない地球環境を守り、保全し、未来に引き継いでいくことが求められている。次代を担う子供たちが環境問題を十分に理解し、解決する能力を養うことは大変重要になってきている。

そこで、市独自の環境学習プログラムに基づいて実践する中で、環境教育の目指す人間像「人間と環境のかかわりについての正しい認識に立ち、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会づくりに主体的に参画できる人材を育成すること」に迫ろうと考えた。プログラムに合わせたワークシートも市独自に開発し、実践を進める。

本市の児童・生徒が発信源となって、共生社会が築かれていくことを願っている。

### 「岡崎の心」醸成

岡崎市では、平成22年度より「岡崎の心の醸成」につながる学習を進めている。岡崎にかかわる人・もの・ことを教材や題材として取り上げた学習をすると、岡崎のことがよくわかるようになる。そうすると、郷土岡崎への愛着や誇りが生まれてくる。たとえば、岡崎には、徳川家康、本多光太郎、木村資生といった偉人がいる。そうした人たちの業績や生き方を学び、そこから得られた思いを子供たちが自分の生活や生き方に生かしていけるようにする。子供たちが自分の生活や生き方に生かしていこうとするこの思いを「岡崎の心」とし、その心を醸成する学習を取り入れている。

岡崎の心の醸成をめざす学習の内容

#### (1) 国語科

他教科・領域での郷土学習を生かして書写作品を制作し、市書き初め展で「岡崎の心醸成の部」を設けて展示する。作品を制作することを通して、心が養われる。

# 学 校 教 育

## <作品例>

- ・本多光太郎博士のことを学んだ後に、「つとめてやむな」と書く。
- ・家康公の生き方を学んだ後に、遺訓の気に入った部分を書く。
- ・故郷を詠んだ自作の俳句を短冊に書く。
- ・「夢 ふくらませ」の学校独自の歌詞を作って書く。

## (2) 社会科

郷土読本「おかざき」(3・4年)、「おかざき」別冊(6年)、「岡崎」(中1～3年)を活用し、郷土に対する理解と愛情を深め、社会的な見方や考え方を養う。

- ・小学校3年 郷土読本巻頭に掲載された、徳川家康遺訓の意味を理解し、親しみをもつ。
- ・小学校4年 徳川家康の生い立ち、学区とのつながり、家康の願いについて学び家康と岡崎市との深いかわりをつかむ。
- ・小学校6年 関ヶ原の戦い以前の家康の歩みと、それを支えた家臣団について学び、家康の業績や残された言葉について考える。
- ・中学校 徳川家康、志賀重昂、石田茂作、本多光太郎など、岡崎と関わりのある人物に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察する。

## (3) 算数・数学

「岡崎の心の醸成」につながる授業のアイデアを、算数・数学部編集・発行の「アイデア集(第28集)」に「岡崎の心の醸成を育む教材」として掲載している。授業の教材として取り上げることで郷土岡崎への関心を高めることをねらいとする。

- ・小学校1年「お城(岡崎城)をつくってみよう」
- ・小学校2年「町別人口集計表を使って数を学習しよう」
- ・小学校3年「ほくのふるさと「岡崎」をあん内しよう」
- ・小学校4年「二十七曲がりを進む向きは角度はどれだけ変わるか調べよう」
- ・小学校5年「徳川家将軍の身長や寿命をもとにして割合をマスターしよう」
- ・小学校6年「昔と今の岡崎市、面積のわりに人口が多いのはどっち?」
- ・中学校1年「味噌樽の容積を考えよう」
- ・中学校2年「岡崎市の人口推移を予想しよう」
- ・中学校3年「統計グラフを作って「岡崎」のよさを伝えよう」

## (4) 理科

木村資生博士のDVDの視聴をとおして、努力することの大切さと科学のおもしろさを学ぶ。

- ・小学校6年「生物と地球の環境」「生物とその環境」

人間を含めた生物の生活がまわりの自然環境と密接に関わっていることを学ぶ。生物が多様な自然環境と適応して進化していった事例を木村資生博士のアニメを視

聴することで学ぶ。

- ・ 中学校 2 年「動物の生活と生物の進化」
- ・ 中学校 3 年「生命の連続性」

生物の進化に対する興味・関心を高める発展的内容として木村資生博士の「分子進化中立説」を学ぶ。ダーウィンと肩を並べるほどの偉業を成し遂げた科学者が、岡崎から生まれたことを紹介する。

## (5) 音楽科

授業をはじめ、式典や行事などで歌うことをとおして、岡崎の自然、歴史、産業、先人の生き方などにふれ、夢や憧れをもたせるとともにふるさと岡崎への誇りと愛着をもたせる。

- ・ 小学校「夢 ふくらませ」

小学生が歌えるように親しみのある旋律と日本の代表的な文学である俳句や短歌の伝統的な様式を踏まえた七五調による歌詞に、岡崎の自然、偉人、生活、伝承などが詠われている。歌うことで岡崎の人・もの・ことを理解し、岡崎への愛着や誇りといった思いをもたせる。

- ・ 中学校「夢 受け継いで」

現代的な旋律と今を生きる子供と偉人の思いを重ね歌唱できる混声三部合唱曲。自分を振り返り、偉人の生き方へ思いをめぐらし、未来への思いをふくらませる。

## (6) 図工・美術科

岡崎に伝わる伝統的な美・技法・素材・話・人・建物・自然・行事などを扱った表現や鑑賞を通して実践する。小学校中学年、小学校高学年、中学校のそれぞれの段階で年間に少なくとも一題材は取り組むようにする。

## (7) 保健体育科

児童生徒が岡崎の心をリズム体操やダンスで表現を行う。

- ・ 小学校「リズム体操－夢 おどる－」
- ・ 中学校「岡崎の舞－夢 おどる－」
- ・ 共通「ヒップホップダンス－夢 おどる－」

## (8) 技術・家庭科

小学校では八丁みそを使用したみそ汁づくり、中学校では鍋づくりをとおして、食と健康の関係について学ぶ。

- ・ 小学校 5 年

徳川家康が食したとされる三つの根菜と五つの葉の野菜が入った「三根五葉汁」について調べ学習を行う。それをもとに、岡崎の赤みそを使って栄養価の高いみそ

## 学 校 教 育

汁づくりを実習する。それぞれの家庭の好みや季節に合わせた素材を活用し、家庭での実践を図る。

・ 中学校

「三根五菜汁」で学んだ旬の地元野菜に加え、季節の魚介類を入れ、家康が食したとされる「家康鍋」を実施する。みそには技術分野で育てた矢作大豆を加工したものを使用し、地産地消についても学ぶ。



〈家庭科授業風景〉

(9) 英語科

テキスト教材「Our City OKAZAKI」の活用

・ 中学校2年、3年

岡崎について書かれた英文を聞いたり読んだりする活動をとおして、郷土岡崎についての理解を深め、話したり書いたりして発信する力を養う。

・ 内容

- ①ビスタライン ②岡崎城 ③八丁みそ ④花火 ⑤りぶら ⑥東公園  
⑦石工業 ⑧浄瑠璃姫 ⑨男川やな ⑩二十七曲がり ⑪ホテル ⑫伊賀八幡宮  
⑬本多光太郎 ⑭欣求浄土 ⑮土呂八幡宮 ⑯ジャズの街

(10) 道徳

偉人の功績と生きざまに触れ、努力、思いやり、郷土愛などの大切さを学ぶ。

- |             |       |             |       |
|-------------|-------|-------------|-------|
| ・ 徳川 家康 (人) | 小学校1年 | ・ 加藤 源重 (人) | 小学校2年 |
| ・ 本多光太郎 (人) | 小学校3年 | ・ 橋本増治郎 (人) | 小学校4年 |
| ・ 志賀 重昂 (人) | 小学校5年 | ・ 徳川 家康 (人) | 小学校6年 |
| ・ 石田 茂作 (人) | 中学校1年 | ・ 大給 亘 (人)  | 中学校2年 |
| ・ 木村 資生 (人) | 中学校3年 |             |       |

## ◆ 特色ある教育活動・取組 ◆

### 感性を育む心の教育

本事業は、芸術・文化活動の優れた作品などの鑑賞や体験活動を通して、資質と感性をほぐくみ、未来を担う子供たちの健やかな成長を図ることを目的としている。

毎年、中学生には名古屋フィルハーモニーによるクラシックコンサートを、小学生には観劇を実施している。

年度	演 目	公 演 団 体
16	シンデレラ	劇団東少
17	ハックルベリー・フィン	劇団青い鳥ティアティカルカンパニー
18	白雪姫	劇団東少
19	ピーターパンとウェンディ	劇団ポプラ
20	アラジンと魔法のランプ	劇団かかし座
21	人間になりたかった猫	劇団四季
22	エルコスの祈り	劇団四季
23	はだかの王様	劇団四季
24	ガンバの大冒険	劇団四季
25	桃次郎の冒険	劇団四季

### 教員補助者活用事業

本事業は、社会全体で学校を支え学校教育の一層の活性化を図ることを目的に、性別や教員免許の有無を問わず、生活経験が豊かで学校教育に理解ある社会人を教員補助者として臨時的に採用し活用するものである。学校の指導計画に基づき、少人数編成による学習指導や学級担任の補助、障がいのある児童・生徒への対応補助・理科の授業補助など、各学校が必要とする場面で教育活動が展開される。

### 公共施設無料化および割引（わくわくカード）

平成14年度からの完全学校週5日制の実施に伴い、子供たちに岡崎の歴史や文化、芸術に親しむ機会を増やすことを目的に開始され、市内在住・在学の小・中学生は受付窓口に「わくわくカード」もしくは生徒手帳を提示することにより、市内の5施設（岡崎城、家康館、世界子ども美術博物館、美術館、美術博物館）を無料で利用できる。また、平成23年度から、まちバス乗車が割引料金（100円で乗車）で利用できる。

### 学校図書館支援員活用事業

本市のすべての子供が充実した読書環境と多種多様な読書の機会を得ることができるよう、平成21年4月に「岡崎市子ども読書活動推進計画」が策定された。学校図書館の運営においても、読書センター、情報センターとしての機能を充実させ、魅力的な学校図書館づくりを進めるため、学校図書館の運営に理解のある地域の人材を学校図書館支援員（臨時職員）として雇用し、平成23年度には、小学校16校、中学校4校に、各1名ずつ、合計20名を配置した。平成24年度は、小学校24校、中学校7校に各1名ずつ、合計31名を配置した。

### スーパーサイエンススクール推進事業

本事業は、理科学習指導要領が求める科学館や博物館などの外部学術機関との連携を具現化したり、地域の科学的資産を効果的に活用したりすることで、理科授業の充実・向上を図るとともに、児童生徒の科学的リテラシーを向上させることがねらいである。平成25年度は、小学校3校、中学校3校を指定する。自然科学研究機構、特色ある理科教育を行っている高校、地元企業などとの連携を図った理科教育を実践する。

# 学 校 教 育

## ◆ 情 報 教 育 ◆

岡崎市では、国際化・情報化が進む社会で生き抜く力をつけることを目的とし、コンピュータの学校教育への導入を早くから推し進めてきている。

### 情報教育施設

平成22年に政府のIT戦略本部で決定された「新たな情報通信技術戦略」の重点施策として、教育分野については、「情報通信技術を活用して、子供同士が教え合い学び合うなど、双方向でわかりやすい授業の実現、教職員の負担軽減、児童生徒の情報活用能力の向上が図られるよう、21世紀にふさわしい学校教育を実現できる環境を整える」ことが盛り込まれた。また、同年に閣議決定された「新成長戦略」では、「子供同士が教え合い学び合う協働学習の実現」のために、情報通信技術の利活用を更に進めることなどが盛り込まれた。これらを受けて、文部科学省が示した「教育の情報化ビジョン」をもとに、「21世紀にふさわしい学びと学校の創造」を目指し、今後も積極的に環境整備を進めていく。

- 1 パソコン教室にパソコン42台（1人に1台）配備と活用促進
- 2 校内LAN整備と超高速ネットワークの構築
- 3 教職員用、校内LAN用パソコン整備と活用促進
- 4 普通教室の大型ディスプレイおよびパソコン等のICT環境整備

### 教員のコンピュータ活用技能の向上

児童生徒を指導する教員のコンピュータ指導技能の向上を図るために、各種研修を各学校を中心に執り行っている。教員に対して実施される研修は、基礎研修とネットワーク管理者用研修の両面で実施するとともに、学校や岡崎教育ネットワークに導入しているソフトに関しても実施している。基礎研修は、役職者を含めた学校のすべての教員を対象に実施している。

平成24年度実施研修

- ・パソコン基礎研修（学習情報主任者会と連携）
  - 研修時間：6時間程度
  - 目的：導入しているハードとソフトの利用と指導法の理解
  - 人数：30人程度
  - 会場：六名小学校
- ・パソコン室更新校と教職員ノートパソコン等更新校における操作研修会
  - 研修時間：3時間程度
  - 目的：導入したハードとソフトの利用と指導法の理解
  - 人数：430人程度
  - 対象：教職員パソコン更新校11校
- ・初任者パソコン研修
  - 研修時間：6時間程度
  - 目的：ICTの効果的活用方法と教材作成
  - 人数：80人程度
  - 会場：羽根小学校、矢作南小学校、葵中学校



## パソコン配備及びインターネット・校内LAN整備の現状

年度	パソコン配備		インターネット・校内LAN整備	
	小学校	中学校	小学校	中学校
9	パソコン教室に11台 配備完了			
10		パソコン教室に42台配 備完了		インターネット導入
11	井田小、藤川小のパソ コン教室に22台配備		インターネット導入	
13	パソコン教室に42台 配備（10校）		校内LAN整備工事 （10校）	
14	パソコン教室に42台 配備 （前期10校、後期20校）		校内LAN運用開始 （10校）	
15		パソコン教室のパソコ ン更新（18校）		
16	パソコン教室に42台 配備（2校） ※配備完了		校内LAN整備工事（3校） 〃 運用開始（3校）	
17			校内LAN整備工事（1校） 〃 運用開始（2校）	校内LAN整備工事（2校） 〃 運用開始（3校）
18	パソコン教室のパソコ ン更新（10校）			校内LAN整備工事（3校） 〃 運用開始（3校） 教職員用パソコン運用開始 （8校）
19	パソコン教室のパソコ ン更新 （前期10校、後期20校）		教職員のパソコン配備	校内LAN整備工事（4校） 〃 運用開始（4校） 教職員用パソコン運用開始 （1校）
20		パソコン教室のパソコ ン更新（18校）	校内LAN整備工事（2校） 〃 運用開始（2校） 教職員用パソコン運用開始 （13校）	
21	パソコン教室のパソコ ン更新（実施せず）	普通教室のパソコン整 備	校内LAN整備工事（8校） 〃 運用開始（8校） 教職員用パソコン（20校）	校内LAN整備工事（1校） 〃 運用開始（1校）
22	パソコン教室のパソコ ン更新（8校）		校内LAN整備工事（11校） 地デジ対応工事（2校） 教職員用パソコン更新 （2校）	校内LAN整備工事（4校） 改築による整備（1校） 教職員用パソコン更新 （3校）
23			地デジ対応工事（1校）	教職員用パソコン更新 （11校）
24	パソコン教室のパソコ ン更新（20校）		地デジ対応工事（1校） 教職員用パソコン更新 （10校）	地デジ対応工事（6校） 教職員用パソコン更新 （6校）

# 学 校 教 育

## ◆ 国際理解教育 ◆

### 中学生海外派遣事業

未来を担う児童生徒に夢と希望をもたせ、広い視野にたつて郷土の発展を考え、国際親善・交流を深めている。昭和55年に派遣を開始し、現在、姉妹都市（アメリカ・ニューポートビーチ市、中学生6名派遣）と友好都市（中国・呼和浩特市、中学生7名派遣）との間で学校訪問、ホームステイ等を入れながら、相互訪問の形式をとり、実施してきた。

さらに、平成16年度より、この2つの事業に加えて、もう一つの姉妹都市であるスウェーデンのウッデバラ市への訪問（中学生6名派遣）を始めた。

また、平成18年度より3年間に限って、旧額田町の交流事業として行ってきたマレーシア・クアラルンプール市への訪問（額田中学生10名派遣）を継続した。これらの交流を通して異文化体験を深め、一層国際理解が深まることが期待される。

### 外国語指導助手招致事業

外国語指導助手（ALT）を市内の小中学校へ派遣し、英語教育、国際理解教育の推進に役立っている。平成2年夏より市独自でALTを採用した。平成25年度より20名に増員をし、英語教育の一層の充実を図る。

### 小学校英語支援員派遣事業

小学校において効果的な英語活動の授業が実施できるように、英語が堪能で小学校英語に理解のある地域の人材を小学校英語支援員として派遣している。平成22年度より18名に増員し、英語活動の授業でALTや学級担任と協同授業をしたり、教材作りの補助をしたりする。

### 日本語教育講師派遣事業

市内小中学校に在籍する日本語教育が必要な外国籍の児童生徒を中心に、語学指導員を派遣し、担当教員と共に、日本語教育及び生活適応相談を行っている。現在、語学指導員を6名（ポルトガル語4名、中国語1名、タガログ語1名）をお願いし、市内拠点校を巡回訪問している。その他、保護者との個人懇談会などに通訳が必要な場合にも随時対応している。

### 国籍別児童生徒数

（平成25年3月1日現在）

国 籍	生 徒 数 (人)	
	小 学 校	中 学 校
ブ ラ ジ ル	161	101
フ ィ リ ピ ン	68	28
中 国	27	15
そ の 他	24	18

## ◆ 特別支援教育 ◆

平成19年度より特殊学級の名称は特別支援学級となる。

特別支援教育は、通常の学級に在籍する発達障がいのある子供への支援部会と特別支援学級に在籍する子供への支援部会がある。そして、それらを統合し、外部機関との連携を図る特別支援教育連携協議会を平成17年8月に設置した。

その連携協議会は、就学前から、卒業後まで、何らかの支援を必要とする子供たちへの具体的な支援を検討し、福祉、労働、教育、行政の関係機関から代表者を募り、横の連携を図っている。校内支援委員会を立ち上げ、その運営の責任者として特別支援教育コーディネーターを設置している。関係機関との連携を図り、通常の学級に在籍する発達障がいのある子供への具体的な支援策を検討、実践し、評価する。

特別支援学級の教育を担当する部会は、日常の教育内容を研究する部門と交流及び共同学習を推進する部門と就学、進路指導に関わる部門などを内容とする。

### 就学指導

#### 1 就学指導委員会・教育相談会

就学指導委員会は、医師、教師、発達障がいの専門家などで構成されている。障がいのある児童・生徒や就学対象児の行動観察や面接、医師の診断、教育相談会などを通して、様々な角度から子供にとって必要な教育的支援の内容及び適切な就学先について、総合的に調査・審議・判定を行っている。

#### 2 「そよかせ相談室」

新入学児童の就学及び、通常の学級に在籍している子供に関して、不安や悩みを抱えている保護者を対象に、気軽に相談できる窓口「そよかせ相談室」を開設している。悩みや不安の解消に効果を上げている。

### 中学校特別支援学級進路指導

#### 1 中学校特別支援学級進路指導部会

進路希望状況や進路希望先など様々な情報交換を行い、生徒の適切な進路先を決定する。

#### 2 施設見学会

生徒・保護者・担当教師が春日台職業訓練校への見学会に参加し、訓練内容や寮生活を直接見ることにより進路選択の正しい情報を得る。



〈特別支援学級絵画作品展〉

### 子どもと親の集い交流会

昭和58年度から開催されてきた「子どもと親の集い運動会」に代わり、平成15年度より市内小中学校を10ブロックに分け、ブロック単位の「子どもと親の集い交流会」を実施している。

24年度は12ブロックで、ゲーム大会、レクリエーション、運動会等、様々な内容の交流が行われ、子供も大人も一緒に楽しみ、親睦を深めた。

### 特別支援学級児童・生徒数（平成25年5月1日現在）

	知的障がい	自閉症・情緒障がい	病弱・身体虚弱(含院内)	計
小学校	135	131	3	269
中学校	77	87	2	166

# 学 校 教 育

## ◆ 教職員の研修 ◆

### 平成25年度初任者研修（校外研修）年間計画

※第1回、第19回（開・閉講式）は新規採用事務職員も参加

回	月 日	曜	研修対象者	会 場	研修領域	内 容
1	4月17日	水	小学校初任者 中学校初任者 新規採用養護教諭 新規採用事務職員	総合学習C 小ホール	基礎的素養	〔開講式〕 ・講話 ・接遇、教育公務員としての服務
2	5月8日	水	小学校初任者	総合学習C	教科指導 学級経営	・授業の進め方、評価について ・学級経営の進め方
			中学校初任者 新規採用養護教諭	市内各教育施設	基礎的素養 総合的な学習 生徒指導	・市内教育関連施設巡回 岡崎城、家康館、世界子ども美術博物館、消防署、相談センター・ハートピア
自主	5月18日	土	小学校初任者 新規採用養護教諭	中央総合公園	葵三大イベント～岡崎の教育 力・技・美の祭典～ 中学校総合体育大会開会式	
3	5月22日	水	小学校初任者	市内各教育施設	基礎的素養 総合的な学習 生徒指導	・市内教育関連施設巡回 岡崎城、家康館、世界子ども美術博物館、消防署、相談センター・ハートピア
			中学校初任者	総合学習C	教科指導 学級経営	・授業の進め方、評価について ・学級経営の進め方
			新規採用養護教諭		専門研修	・保健室経営の進め方 ・救急処置の理論と実際
4	6月5日	水	小学校初任者 中学校初任者 新規採用養護教諭	総合学習C 小ホール	基礎的素養 総合的な学習	・特別支援教育の基本的な考え方 ・ESD、岡崎の教育三本柱の意義と進め方
5	6月12日	水	小学校初任者 中学校初任者 新規採用養護教諭	総合学習C 小ホール	生徒指導 教科指導	・いじめ、問題行動の理解と指導 ・教研レポート、論文の書き方
6	7月23日 ～7月30日 (1日間)	火 ～ 火	小学校初任者 中学校初任者 新規採用養護教諭	中央クリーン センター	基礎的素養	社会奉仕体験 ・ごみ収集体験 *7/23～7/30のうち1日間実施
7	7月23日 ～7月30日 (1日間)	火 ～ 火	小学校初任者 中学校初任者 新規採用養護教諭	市内保育園	基礎的素養	社会奉仕体験 ・保育園実習体験 *7/23～7/30のうち1日間実施
8	7月31日 8月2日 (1日間)	水 金	小学校初任者 中学校初任者 新規採用養護教諭	総合学習C 市内各教育施設	教科指導	・授業力・教師力アップセミナー基礎編に 参加（1日間）
9	8月7日	水	小学校初任者 中学校初任者 新規採用養護教諭	市内小中学校	基礎的素養	・情報、視聴覚機器を用いた授業づくり ・動画編集やプレゼンテーションソフトを 利用した教材づくり
10～ 12	8月21日 ～8月23日 (3日間)	水 ～ 金	小学校初任者 中学校初任者 新規採用養護教諭	岡崎市 少年自然の家	特別活動 道徳 基礎的素養	〔宿泊研修〕 ・宿泊体験、野外活動 ・部活指導 ・道徳指導 ・救急処置法
13	9月3日	火	小学校初任者 中学校初任者 新規採用養護教諭	総合学習C 市内各教育施設	教科指導	・実践研究発表と研究協議
14	10月16日	水	小学校初任者 中学校初任者	常磐南小学校	教科指導	・教科学習の進め方（模範授業参観）
			新規採用養護教諭	総合学習C	専門研修	・健康観察と保健指導の進め方 ・学校保健計画と学校保健委員会
自主	10月26日	土	小学校初任者 中学校初任者 新規採用養護教諭	おかざき世界 子ども美術博 物館	葵三大イベント～岡崎の教育 力・技・美の祭典～ 造形おかざきっ子展作品鑑賞	
15	10月30日	水	小学校初任者 中学校初任者 新規採用養護教諭	市内小中学校	道徳 (模範授業参観)	・小学校 道徳教育の進め方 ・中学校 道徳教育の進め方

# 学 校 教 育

自主	11月2日	土	小学校初任者 中学校初任者 新規採用養護教諭	岡崎市民会館	葵三大イベント～岡崎の教育 力・技・美の祭典～ 小中連合音楽会岡崎のハーモニー鑑賞	
16	11月13日	水	小学校初任者 中学校初任者	竜海中学校	教科指導	・教科学習の進め方（模範授業参観）
			新規採用養護教諭	総合学習C	専門研修	・養護教諭が行う心身の健康相談 ・健康診断の効果的な進め方とその課題
17	11月22日	金	小学校初任者 中学校初任者 新規採用養護教諭	六ツ美中部小学校	教科指導	・教科学習の進め方（模範授業参観）
18	1月22日	水	小学校初任者 中学校初任者 新規採用養護教諭	市内小中学校	教科指導	・小学校 初任者研究授業、授業分析 ・中学校 初任者研究授業、授業分析
19	2月5日	水	小学校初任者 中学校初任者 新規採用養護教諭 新規採用事務職員	総合学習C	基礎的素養	・体験発表「1年間を振り返って」 〔閉講式〕 ・挨拶 ・初任者代表挨拶

# 学 校 教 育

## 平成25年度 10年経験者研修（校外研修）年間計画

月 日	曜	対 象	時間	会 場	領 域	内 容
5月24日 ①	金	小中学校教諭 養護教諭 10年経験者	15:00	総合学習 センター	共通研修	・講義「教育の今日的課題」 ・講義「中堅教員としての役割」 ・講義「危機管理」
7月31日 8月2日 ②	水 ・ 金	小中学校教諭 養護教諭 10年経験者	9:00	総合学習 センター 他	選択研修 Ⅰ	・授業力・教師力アップセミナー 【基礎編】での受講
8月6・7 日 ③	火 ・ 水	小中学校教諭 養護教諭 10年経験者	9:10	総合学習 センター 他	教科指導 研修Ⅰ	・授業力・教師力アップセミナー 【応用編】での受講
8月8日 ④	木	小中学校教諭 養護教諭 10年経験者	9:10	総合学習 センター 他	選択研修 Ⅱ	・授業力・教師力アップセミナー 【応用編】での受講
夏季休業中 (2日間) ⑤⑥		小中学校教諭 養護教諭 10年経験者	終日	各施設	社会体験 研修	・市内の福祉施設や社会教育施設、 企業での社会体験研修
6月から12月 (1日間) ⑦		小中学校教諭 養護教諭 10年経験者	終日又 は午後	異校種 各学校等	異校種 体験研修	・異校種の研究発表会に参加 ・研究協議会、分科会等に参加 ・生徒指導や教科指導に関する研修
8月22日 ⑧	木	小中学校教諭 養護教諭 10年経験者	13:30	総合学習 センター	生徒指導 研修Ⅰ	・講義「いじめ・不登校児童生徒、 発達障がい児への理解と対応」
9月3日 ⑨	火	小中学校教諭 養護教諭 10年経験者	13:50	教育研究 大会会場	教科指導 研修Ⅱ	・実践研究発表と協議
2月5日 ⑩	水	小中学校教諭 養護教諭 10年経験者	15:00	総合学習 センター	生徒指導 研修Ⅱ	・生徒指導総括講話

## 授業力・教師力アップセミナー「基礎編」「応用編」

8月上旬を中心に、18の教科・領域で講習会を設け、参加者を募り実施する。授業研究を中心とした学習指導の基礎・基本を身につけるための研修を行い、教員の力量向上を図る。

### 1 基礎編

(平成25年度 実施予定)

月 日	教科・領域	会 場	内 容
7・31 (水)	国語(書写)	岡崎市民会館 (集会1号室)	毛筆書写の実技指導 国語科教材の教材研究
8・2 (金)	社 会	市地域交流センター 六ツ美分館(悠紀の里)	市地域交流センター六ツ美分館「悠紀の里」をはじめとする六ツ美地区のフィールドワーク
8・2 (金)	算数・数学	竜美丘会館(501号)	E S Dの視点に立った算数・数学の教科指導 小中の関連を図った算数・数学指導
7・31 (水)	理 科	福岡中学校	生理学研究所教授講話「脳は不思議がいっぱい」 2学期以降の教材(実験・実技)研究
8・2 (金)	生 活	総合学習センター (教育研究室2)	授業実践報告 講話「思考を深めた気付きに導く生活科の カリキュラムデザイン」
7・31 (水)	総合的な学習	総合学習センター (教育研究室2)	市教育論文最優秀賞の実践発表 講話「子供たちの未来を拓くE S D」
8・2 (金)	音 楽	総合学習センター (小ホール・教育研究室3・4)	各打楽器の特徴と基本的な奏法についての実習 グループアンサンブルの実践と発表・評価方法
7・31 (水)	図工・美術	おかざき世界子ども美術 博物館(視聴覚室)	講義「子供の作品の見方と鑑賞指導の在り方」
7・31 (水)	保健体育	福岡小学校(体育館)	講義「新学習指導要領における器械運動の内容と取り扱い」 実技実習「器械運動の実践」
8・2 (金)	家庭科 (小学校)	大門小学校(家庭科室・ 図書室・パソコン室)	個性を發揮できる被服作品製作のコツ 安全・安心 調理実習のコツ
7・31 (水)	技術・家庭科 (技術分野)	三菱自動車工業(株) 岡崎工場	三菱自動車工業株式会社 岡崎工場の見学 担当者とのディスカッション
7・31 (水)	技術・家庭科 (技術分野)	南部市民センター (和室①・②)	和装着用技術の実習 和裁技術研修「はぎれを利用した巾着づくり」
7・31 (水)	英 語	南部市民センター分館 (体育集会室)	小学校英語活動における担任の役割 中学校における英語を話せるおかざきっ子育成の手立て
7・31 (水)	道 徳	総合学習センター (教育研究室1)	模擬授業・質疑応答 道徳の時間における情報モラル指導
7・31 (水)	特別支援教育	総合学習センター (小ホール)	講話「発達障がいのある児童生徒法海と支援」 実習「発達検査の見方」「教材・教具の紹介」
8・2 (金)	学習情報	羽根小学校(パソコン室)	「情報モラル教育推進」講座 「ICTを活用した授業作り」講座
8・2 (金)	学校図書館	図書館交流プラザ (会議室302・303)	学校図書館の掲示物作成
7・31 (水)	学校保健	竜美丘会館(301号室)	講義「学校での応急手当と医療行為について」
8・2 (金)	生徒指導 (問題行動)	総合学習センター (教育研究室1)	講演「危機と安全対策」グループ研修「問題行動にお ける保護者への対応」、「いじめ問題について」
7・31 (水)	生徒指導 (不登校)	教育相談センター	講話「不登校児童生徒に対する効果的な対応」 実習 不登校児童・生徒・保護者に対する言葉かけ、 ロールプレイング等

# 学 校 教 育

## 2 応用編（岡崎市教員免許状更新講習）

（平成25年度 実施予定）

番	講習名	会 場	内 容
①	小学校国語科教育	総合学習センター 2F （教育研究室 2）	これまでの小学校国語科教育の課題を踏まえ、新学習指導要領に照らし合わせた学習指導のポイントを明らかにする。
②	中学校社会科教育	総合学習センター 2F （教育研究室 1）	これまでの中学校社会科教育の課題を踏まえ、新学習指導要領に照らし合わせた学習指導のポイントを明らかにする。
③	小学校算数科教育	総合学習センター 3F （教材開発室 1）	これまでの小学校算数科教育の課題を踏まえ、新学習指導要領に照らし合わせた学習指導のポイントを明らかにする。
④	中学校理科教育	総合学習センター 3F （教材開発室 2）	中学校理科学習の内容や授業の基本的な進め方、実験・観察の要点を実習・協議会を通して探る。
⑤	小学校音楽科教育	総合学習センター 2F （小ホール）	小学校音楽科教育の内容や授業の基本的な進め方を、実技を通してその要点を明らかにする。
⑥	小学校図画工作科教育	子ども美術博物館 （視聴覚室）	小学校学習指導要領に沿った図画工作科教育の指導のポイントを明らかにする。
⑦	小学校体育科教育	総合学習センター 1F （第2会議室・体育室）	小学校体育科の学習指導要領の改訂のポイントを踏まえて、発達段階に応じた指導内容を具体的な事例をもとに明確にする。
⑧	中学校技術科教育	新香山中学校 （パソコン室・木工室）	これまでの中学校技術科教育を中心に、その内容や傾向と新学習指導要領を基にした学習指導のポイントを明らかにする。
⑨	中学校英語科教育	総合学習センター 2F （教育研究室 3）	中学校英語科の授業についてコミュニケーションを中心に活性化する方法を明らかにする。
⑩	健康教育	総合学習センター 1F （第1会議室）	子供たちの心身の課題となっている要因を探り、よりよい解決方法について具体的に探る。
⑪	中学校国語科教育	総合学習センター 2F （教育研究室 3）	新学習指導要領に照らし合わせた学習指導のポイントやよりよい指導方法、学力向上に向けた取組を明らかにする。
⑫	小学校社会科教育	総合学習センター 2F （教育研究室 1）	新学習指導要領に照らし合わせた学習指導のポイントやよりよい解決方法、学力向上に向けた取組を明らかにする。
⑬	中学校数学科教育	総合学習センター 1F （第2会議室）	全国学力・学習状況調査の結果から課題の要因を探り、新学習指導要領に照らし合わせた学習指導のポイントを明らかにする。
⑭	小学校理科教育	総合学習センター 2F （教育研究室 2）	小学校理科学習の内容や授業の基本的な進め方、実験・観察の要点を実習・協議会を通して探る。
⑮	中学校音楽科教育	総合学習センター 3F （教材開発室 1）	音楽教育の研究を進め、歌唱・器楽・創作・鑑賞について指導上の配慮や指導法の工夫について実践的に研修する。
⑯	中学校美術科教育	総合学習センター 3F （教材開発室 2）	制作活動や鑑賞活動に対する生徒の意欲化を図るための工夫よりよい指導方法や教材の工夫について研修を深める。
⑰	中学校保健体育科教育	梅園小学校 （図書室・体育館）	生涯運動に親しむ資質や能力の育成、健康の保持増進のための実践力や体力の向上を図る体育活動の進め方を明らかにする。
⑱	小・中学校家庭科教育	総合学習センター 1F （第1会議室）	家庭科教育の現状と課題から、小学校家庭科・中学校家庭分野の授業づくりの方法や教材研究の観点を検討する。
⑲	小学校外国語活動	総合学習センター 2F （小ホール）	小学校外国語活動を中心に、小学校と中学校英語教育との連携などを含め、新たな英語教育の課題について議論をする。
⑳	保健室と養護教諭【養護教諭対象】	総合学習センター 2F （教育研究室 4）	保健室の機能や養護教諭の専門性を十分に生かし、子供たちの健やかな育成と他の命を大切に教育に向けた取組を明らかにする。



⑳	道徳教育	総合学習センター 3F (教材開発室 2)	道徳の時間を核とする学校の道徳教育について、具体的な事例を基に教師の理解と意欲を高める。
㉑	特別活動・ 学級経営	総合学習センター 1F (第1会議室)	学級活動を中心に生徒理解や生徒指導にかかわる、よりよい学級づくりの在り方を、具体的事例を基に研修する。
㉒	生活科・ 総合的な学習	総合学習センター 2F (教育研究室 1)	生活科における気付きを高める授業の在り方や総合的な学習の時間における内容や評価方法を明らかにする。
㉓	情報教育	矢作南小学校 (パソコン室)	ICT教育の在り方について、コンピュータ機器の使い方を中心に、具体的な授業実践例をもとに明らかにする。
㉔	発達障がい児の 理解と支援	総合学習センター 2F (小ホール)	発達障がい児一人一人に応じた計画を立て指導支援をし、交流・共同学習を展開することなどを研修する。
㉕	生徒指導	総合学習センター 2F (教育研究室 2)	行動から学ぶ規範意識の形成と対応、いじめ問題、不登校、保護者への対応、ネット社会の問題への対応について明らかにする。
㉖	保 健	総合学習センター 3F (教材開発室 1)	子供の心身の健康・安全に関する内容（疾病予防、けがの未然防止、不登校や心に関する予防的措置、食育、生活習慣病）等について明らかにする。

## 小学校教諭免許状取得研修

中学校教員の資質の向上及び円滑な小中学校の人事交流に資するため、大学の通信教育の方法により小学校教諭 2 種免許状を取得する。対象者は、公立中学校での勤務経験が 3 年以上で小学校教諭免許状を所有しておらず、市教育委員会が推薦する者とする。研修期間は 1 年間でその間 4 月から 12 月まで毎月 1 回、日曜日、計 9 回の出張講義とレポート提出、及び試験が実施される。平成 25 年度は 8 名が受講する。

## 現職研修事業

現職研修を推進し教職員の資質の向上に努めることを目的として、各小中学校でさまざまな取組が学校独自の年間計画のもとに行われる。計画とその結果は年度の初めと終わりにそれぞれ市教育委員会に報告される。事業内容には教職員に対する研修や研究発表に係わる活動及び研究成果のまとめ等がある。

## 新任教師の集い

来年度の新任教師が集い、2 年目の教師が企画・運営する諸活動を通じて 4 月からの教育活動に生かす。研修内容は教師としての基礎・基本を学ぶための、ひらがな・数字の書き方、板書、集団行動の他、先輩の体験談やフリートークなどがある。

# 学 校 教 育

## 教員県外研修

教育に関する今日的な課題について、広く県外の先進校の研究実践に学び、自らの教育実践に生かすとともに、本市教育の進展に寄与させる。市教科・領域指導員を中心に10名の教員が1泊2日の日程で派遣される。(22年度中止)

## 教員海外研修

諸外国の教育制度や教育課程をはじめ、子供たちの学習や生活等海外の教育事情を調査研究し、資質の向上を図るとともに、本市教育の進展に寄与させることを目的とする。

対象者は一般教員3名とし、研修期間は1週間程度とする。(22年度中止)

## 教員滞在研修

国内の先進的な教育研究機関において、継続的に研修を深め、資質の向上を図るとともに、本市教育の進展に寄与させることを目的とする。

対象者は一般教員3名とし、研修期間は1週間程度とする。また、研修先は県外の附属学校、大学、センター等の教育施設及び研究先進校とする。(22年度中止)

## 10年経験者研修

10年経験者研修は在職期間が10年を経過した全教員を対象に、教育公務員特例法第24条に基づき、現職研修の一環として研修を実施し、教員の資質向上と使命感を養うと共に、専門性の向上、得意分野の伸長をはかることを目的として、研修を行う。

## 中堅教員総合研修

中堅教員総合研修は、教科指導に優れた専門性と学校運営に対して建設的に参画できる態度・力量を備えた中堅教員の育成を目的として研修を行う。

## 岡崎市教員免許状更新講習

教員免許更新制は、平成21年度から導入された国の制度である。

平成22年度から、岡崎市の教員免許状更新講習受講対象者に、教員として必要な資質能力が保持されるよう、最新の教育について知識や技能を習得させることを目的とし、岡崎市独自の講習を開設している。

## ◆ 教育委員会特別委員会 ◆

市の計画に基づく委託事業を円滑に企画・運営するために、教育委員会特別委員会が設置されている。それぞれの会の委員は各小中学校の校長・教頭・教諭によって組織され、委員の選出に当たっては、他の会の委員との重複を避け、同じ学校の職員に偏ることがないように配慮されている。

### 特別委員会

委 員 会 名	活 動 内 容	委員数
月報「岡崎の教育」 編集委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4班編成の取材・編集</li> <li>・ 月1回の定例編集会議</li> <li>・ 「岡崎の教育」毎月配布</li> <li>・ 教育関係諸機関への送付</li> <li>・ 年2回市民への回覧</li> </ul>	22名
教員の研修に関する委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員の資質向上に向けての調査・研究</li> <li>・ 教員研修必携の編集・改訂</li> <li>・ 「新任教師の集い」の企画運営</li> </ul>	10名
英語が話せる おかざきっ子研究委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語活動の研究・CAN-DOリストの作成</li> <li>・ 英語指導力向上の研究</li> <li>・ タブレット用教材Our City OKAZAKIのデジタル版の作成</li> </ul>	10名
授業改善委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 補助教材検討</li> <li>・ 教育課程編成のための情報収集及び研究</li> <li>・ 評価方法及び通知表の記載についての研究</li> <li>・ 学習指導計画の作成</li> </ul>	15名
学校環境緑化推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「みどり岡崎」の印刷・配布</li> <li>・ 緑化資料（写真）の保存</li> <li>・ 視察研修会</li> <li>・ 緑化訪問</li> </ul>	6名
学校評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各園、小中学校の学校関係者評価委員会への指導・助言</li> <li>・ 学校関係者評価の集約</li> </ul>	8名
情報教育推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報モラル教育の推進と、諸問題を未然に防ぐための方策の提言</li> <li>・ I C Tの効果的活用と情報活用能力を伸ばす授業形態の研究</li> <li>・ 情報セキュリティ意識の向上と、I C T環境整備の仕様提言</li> </ul>	10名

## 学 校 教 育

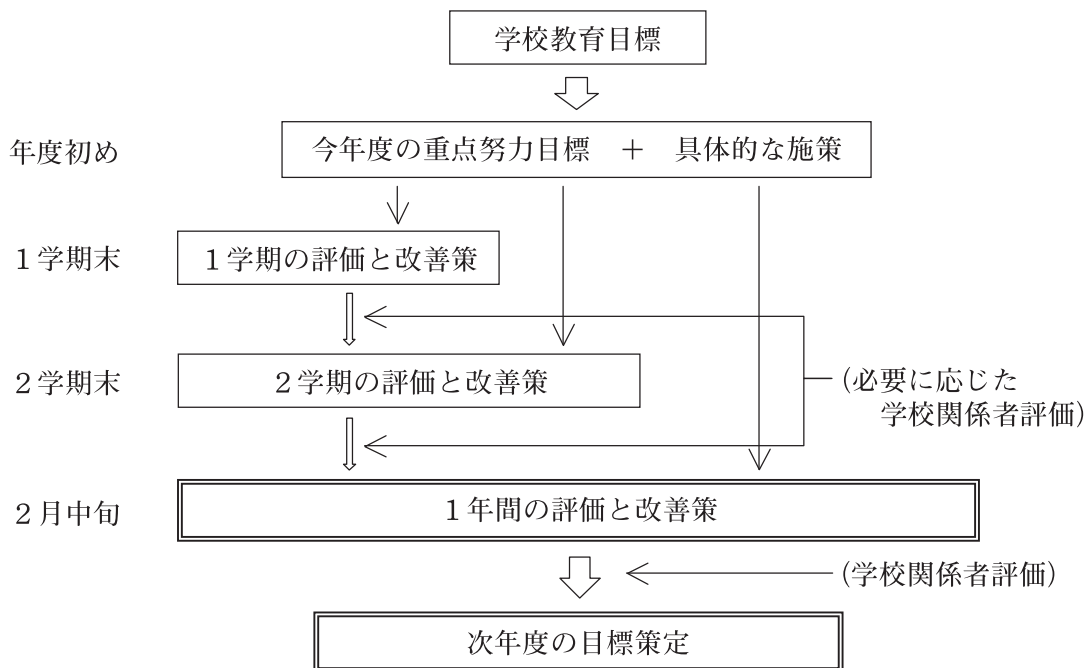
環境教育研究委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡崎市環境学習プログラムに基づく実践事例の調査・検証</li> <li>・岡崎市環境学習プログラムのための資料の収集・活用方法の検討</li> </ul>	10名
郷土読本編集委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校とともに25年度版の修正・見直し作業</li> </ul>	8名
外国人児童生徒教育推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人児童生徒にかかわる教育の推進</li> </ul>	4名
教員免許更新特別委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡崎市教員免許状更新講習の企画運営</li> </ul>	4名
科学の心を育てる委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の理科教育力の発掘と活用についての研究</li> </ul>	6名

### その他の関係委員会等

委員会名	活動内容	委員数
岡崎市就学指導委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある子供のための就学説明会</li> <li>・「そよかせ相談」による就学相談</li> <li>・就学指導委員会の開催</li> <li>・就学指導委員による教育相談</li> </ul>	24名
岡崎市特別支援教育連携協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援を必要とする子供について、教育、福祉、労働などの関係諸機関の連携を図る会を開催</li> <li>・「個別の教育支援計画」を軸に連携のあり方を検討</li> </ul>	20名
岡崎市いじめ・不登校対策協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市のいじめ・不登校対策事業全般にわたって、事業内容や成果・課題を協議し、よりよい事業のあり方の追究</li> </ul>	13名

◆ 学校評価（園・学校 経営評価） ◆

岡崎市立の幼稚園及び小中学校を対象に、学校評価は実施されている。年度ごとに教育目標を設定し、その成果を評価することで、教育内容の質の向上を図ることを目的としている。各園・学校では、年度初めに、学校教育目標を基本として、重点努力目標が策定される。同時に、目標達成のための具体的な施策が策定され、学校関係者評価委員会に対して説明されるとともに、市教育委員会に報告される。1学期末と2学期末には、それぞれの学期における目標の達成状況について、校長の教員評価（園・学校経営評価）が行われる。また、学校関係者評価委員会は、授業や学校行事の参観、教職員や児童生徒との対話を行い、中間評価を実施することもある。3学期には、園・校長を中心として、全職員が、「教育活動診断票」に基づき保護者や児童・生徒による外部アンケートを実施し、成果の見られた点や反省点を洗い出すとともに、自己評価を実施する。そして、自己評価の結果及び今後の改善方策についてまとめたうえで、学校関係者評価を実施し、次年度への改善策や目標が策定される。



学校関係者評価委員会

市内70園・校に設置される。委員会は、園・校長・学校評議員5名（学区有識者、社会教育委員代表、民生児童委員代表、PTAの代表等）、担当教諭1名、児童生徒の代表（各校10名程度）、その他委員長が必要と認める者で構成され、学校の教育活動に対して、地域や保護者だけでなく、子供の声を取り入れることができる組織作りがなされている。

学校評議員は、校長の求めに応じて、学校運営に関し、意見を述べる。

学校関係者評価委員会は、1年間に3回開催される。1学期は、園・校長が、教育方針、めざす子供像、重点努力目標などを学校評議員に説明する。2学期は、学校の様子などを、子供と学校評議員を交えて話し合う。3学期は、学校評議員による学校関係者評価を行う。

# 学 校 教 育

## ◆ 開かれた学校づくり ◆

### 幼稚園・保育園・小学校の連携

幼稚園・保育園等施設が、「遊び」を通して学ぶ、幼児期の教育活動から、教科学習が中心の小学校の教育活動への円滑な移行をめざし、交流や連携（情報の連携・行動の連携）をさらに一層深めることが求められている。

#### 1 交流・連携推進の目的

- ・子供たちに様々な気づきや思いやりの心を育む。
- ・幼児・児童の発達段階を学習することで、教師の子供理解を高める。
- ・幼保小の滑らかなカリキュラムの連携を推進する。
- ・あって当たり前の小1プロブレムを乗り越える力を身につけさせ、小学校生活への適応を円滑にする。

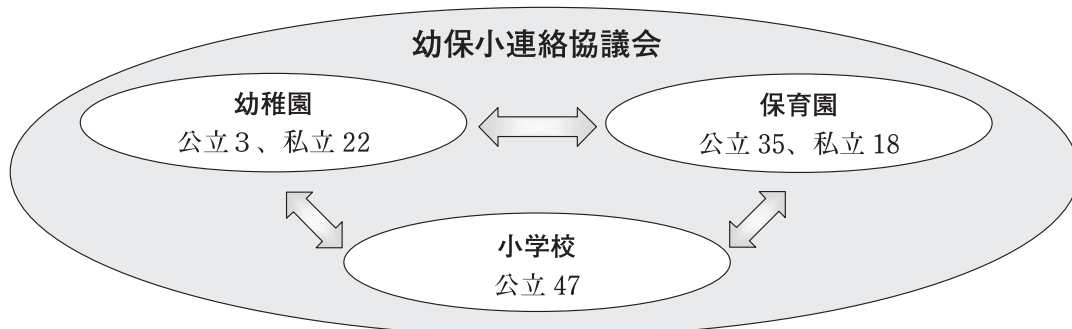
#### 2 組織的・計画的な取組

- ・岡崎市幼保小連絡協議会を年4回開催している。第3回には、全幼稚園・保育園・小学校の担当者も参加し、全市的に連携活動を推進する。

### 岡崎市幼保小連絡協議会

#### 1 活動の概要

平成17年度、岡崎市教育委員会と岡崎市福祉保健部が中心となり、岡崎市幼保小連絡協議会〈準備会〉を立ち上げ、18年度は、それをさらに充実し、正式に発足した。平成21年度からは、会の事務局を岡崎市教育委員会学校指導課とこども部に置き、事業にあたっている。



この協議会は、岡崎市の幼稚園、保育園及び小学校が、それぞれの教育の独自性と連続性を理解し合いながら、交流や連携を図ることにより、子供の生きる力を伸ばし、健やかな育ちを支えることを目的とする。

#### 2 主な取組

- (1) 各幼稚園・保育園・小学校の交流や連携の推進
- (2) 各幼稚園・保育園・小学校の交流や連携の実態把握と分析
- (3) 講演会・研修会等の啓発活動
- (4) 関係諸機関との連携

## 3 組織の構成員

- (1) 学識経験者
- (2) 岡崎市小学校長会の代表者
- (3) 岡崎市私立幼稚園の代表者
- (4) 岡崎市公立幼稚園長会の代表者
- (5) 岡崎市公立保育園長会の代表者
- (6) 岡崎市私立保育園長会の代表者
- (7) 小学校教諭、公立・私立幼稚園教諭、公立・私立保育園保育士
- (8) その他教育長又はこども部長が必要と認める者

### 小学校・中学校の連携

子供たちが豊かな心を育み、健やかに成長するためには、家庭・地域社会との連携もさることながら、学校間の連携（相互交流）も不可欠である。

義務教育の9年間を見通しての小中学校間の連携教育は、一人一人の子供の特性を理解し、発達段階に応じたきめ細かな指導に取り組むことが可能で、その効果も大きい。また、小中学校間の連携は、子供たちの「他を思いやる心」や「自立心」の育成に大いに役立っている。

子供の健全育成に向け、地域や家庭を基盤にした市民総参加による子育てのネットワーク化を図るとともに、小中学校の教師の共通理解のもと、授業参観や行事参観等を通して様々な異年齢交流を展開している。

### 中学校区児童生徒健全育成協議会

中学校区児童生徒健全育成協議会は、中学校区の関係者が中心となり、関係諸団体との密接な連携を深め、児童生徒の健全育成を推進するために平成13年度に組織づくりが開始された。小学校、中学校及び関係諸団体と連携を密にして運営することにより、小中一貫した生徒指導と児童生徒及び学区住民の防犯に対する意識高揚を図る。15年度には15中学区で組織化された。そして、携帯電話の普及等による問題行動の広域化や変質者被害の多発等を踏まえて、市内全中学校区の校長と地域の代表が集まる情報交換会を2回開催した。16年度は、市内のすべての中学校区で組織化を図り、その代表者と校長を集めて、中学校区児童生徒健全育成連合協議会が発足した。平成18年度は、全国で起きた「いじめ自殺」を受け、その対応策を協議した。平成19年度は、「いのちの教育」アクションプランの推進に向けて、子供たちの健全育成に向けた活動を展開した。平成20年度からは、「いのちの教育」アクションプラン推進協議会の地域部会として活動を継続した。平成23年度以降は、各中学校区児童生徒健全育成協議会の充実をはかりながら、確かな行動連携を目指した取組を展開している。

## ◆ いじめ・不登校対策 ◆

### いじめ・不登校対策協議会

いじめ・不登校対策協議会を設けて、いじめや不登校に関するそれぞれの事業の連携を図り、児童生徒のより一層きめ細やかな支援を行うために、臨床心理士、専門機関の代表等の助言を得ていじめ・不登校対策事業を推進する。

### いじめ・不登校相談室事業

臨床心理士の資格を有する者、並びに子供の発達段階を理解し、子供の実態を把握する力量があり、人格・行動において社会的信望を有し、職務遂行に必要な熱意を持つ社会人を登校支援員として活用し、悩みをかかえる児童生徒及びその保護者へのカウンセリングと、担任及び関係教師への指導助言等を行うことで、児童生徒の支援を行う。

#### 1 不登校にかかわる「そよかせ相談室」

＜臨床心理士＞

- ・原則として、月曜日から金曜日の午前9時から午後5時と土曜日の午前9時から正午の中で、教育相談センターにおいて、相談活動・ケース会議等を行う。
- ・原則として、月曜日から金曜日の午前9時から午後5時の中で、保護者の要望を受け、学校からの派遣要請があり、教育委員会が必要と認めた場合、学校現場との連携を基にした登校支援活動を行う。（学校や家庭を訪問、教育相談センターでの教育相談や支援）

#### 2 平成24年度の実績

臨床心理士による相談にかかった人（のべ人数）

（25年3月末現在）

	本 人	保護者	教員等	合 計
平成21年度	341人	786人	47人	1,174人
平成22年度	370人	1,091人	158人	1,619人
平成23年度	471人	1,185人	183人	1,839人
平成24年度	391人	1,428人	223人	2,042人



## 「キッズ岡崎こころの電話」

### 1 活動概要

昭和56年度に始まったすべての市民を対象にした「心の電話おかざき」から、平成23年度より「キッズ岡崎こころの電話」とし、小中学校及びその保護者に対象をしばって教育的援助を行う。父母、先生、友達にも相談できない悩みや問題を、電話で話し合うことにより、多感な時期である小中学生やそれを支える保護者が明るい生活を送れるようになる。また、相談内容によっては専門機関、専門家を紹介して相談者の問題解決を助ける。現在4名の専門相談員によって対応している。今年度4月、小学1年生・中学1年生に利用しやすいように電話番号などの入ったシールを配布した。

- ・電 話 83-5660
- ・受付時間 火曜日～金曜日 正午から午後7時30分  
土曜日 正午から午後4時30分
- ・休 日 日曜日、月曜日、国民の祝日  
12月28日から翌年1月4日まで

### 2 相談件数 (平成24年度)

小学生	中学生	保護者	計
33	15	182	230

### メンタルサポートクラブ事業

心の支援者を組織し、不登校の児童生徒の家族を訪問し、よき相談者としての立場から側面的に援助する事業である。

### スクールカウンセラー

全中学校20校及び全小学校47校（拠点校12校、対象校35校）にスクールカウンセラーを配置し、児童生徒の悩み事の相談や不登校相談に応じる。

## ◆ 危機管理対策 ◆

平成13年6月8日に起きた大阪教育大学教育学部附属池田小学校における児童等殺傷事件をうけ、学校における危機管理体制の確立が急務となった。岡崎市では、防犯ブザーや、防犯ホイッスルを配布するとともに、直ちに岡崎市学校（園）危機管理マニュアルを作成した。以後、各校はそれに基づいて各校（園）に危機管理マニュアルを作成し、教職員の対応や役割分担の確認を毎年4月に行ってきた。

平成15年12月18日には京都府宇治市宇治小学校に不審者が侵入し、小学校1年生が負傷する事件が発生した。そこで、市内の不審者被害の多発の現状を踏まえて、岡崎市学校（園）危機管理マニュアルを改訂すると共に、平成16年1月には不審者対策の避難訓練研修会を岡崎警察署の全面協力を得て市内の校務主任が全員参加して行われた。この研修会を踏まえて自校の危機管理マニュアルの見直しを図り、防犯教室を実施すると共に、園児児童生徒一人一人に引き渡しカードを作成し、授業参観日などの機会に保護者への引渡し訓練を実施した。また、警察、少年愛護センター、市安全安心課などの専門機関や地域住民との連携も進んでいる。そのひとつに、児童生徒の登下校の安全ボランティアを中心としたSSV（スクール・サポート・ボランティア）の拡充がある。平成16年度の中学校区児童生徒健全育成連合協議会の立ち上げもあり、その後、学校・家庭・地域の確かな行動連携が加速した。平成17年度には、小1児童の下校時を狙った痛ましい事件が広島、栃木で発生し、平成20年5月には、豊田市で女子高生が殺害される事件も発生した。さらに、平成23年3月11日には、東日本大震災が発生した。

危機管理マニュアルや安全安心マップの改善を図るとともに、児童生徒が自ら身を守るという安全意識を育てていくことが急務である。

### 携帯用警報ブザー（防犯ブザー）の配布

ブザーは岡崎警察署生活安全課が斡旋するものを選定し、平成13年6月に市立幼稚園に職員数+5個と小中学校に各1個、さらに、9月には小中学校に職員数+5個を配布した。

### 夜間反射材付き防犯ホイッスル・防犯ブザーの活用

防犯ホイッスルは、交通安全にも役立つように夜間反射材のついた首下げ式のホイッスルを選定した。首にかける紐は、安全のために少し強く引くと二つに分かれるものを採用した。平成16年2月に市交通安全課が小学校1、2年生に配布した。また、市安全安心課から平成16年度に新1年生を含め、小学生全員に配布され、その有効活用を図っている。

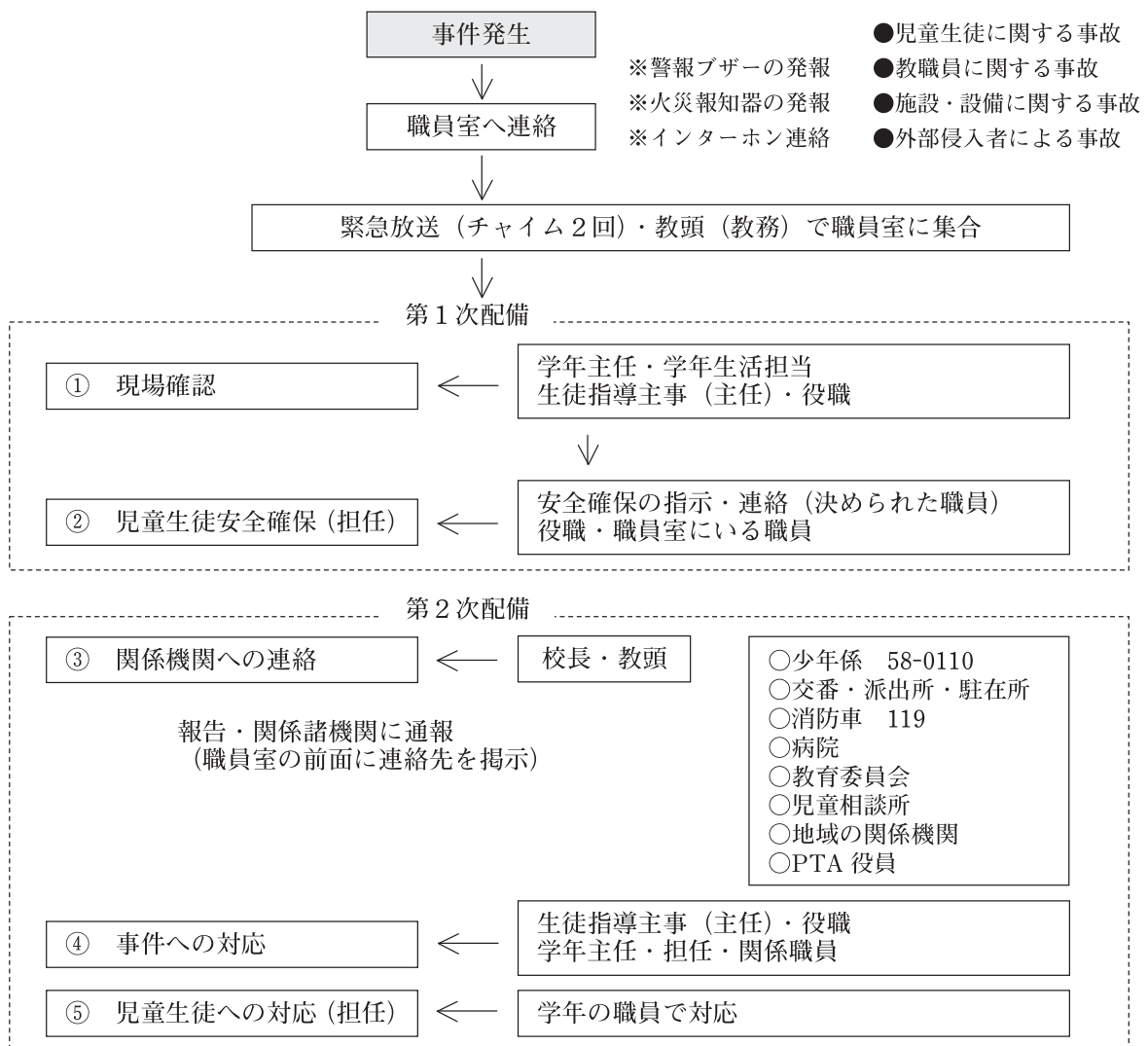
平成17年度には、市内全中学生に防犯ブザーを5月中旬に配布し、児童・生徒の安全確保に努めている。平成18年度以降毎年4月、新小学校1年生と、新中学校1年生に防犯ホイッスル、防犯ブザーを配布している。

## 危機管理マニュアル作成

岡崎市小中学校（園）危機管理マニュアルは、「日常の安全確保」「緊急時の安全確保」「家庭や地域社会の協力を得て取り組むべき事項」を骨子として事件の予防策と事故発生時の対応が定められ、実際に取り組むことができるように具体的な内容を明記している。また、平成16年1月8日には、平成15年2月に文部科学省が発行した「学校への不審者侵入時の危機管理マニュアル」と平成15年3月に愛知県教育委員会が発行した「学校安全マニュアル（幼稚園、小学校及び中学校）」に準じた内容に一部改訂した。毎年4月当初に各学校においてマニュアルを作成し、その内容について、実際に避難訓練や教職員のみによる訓練を行い、教職員に十分周知するようにしている。また、平成19年度より学校情報メールシステムが確立され、市内全小中学校が活用できる体制にある。さらに、平成24年度より学校災害の内容を充実させている。

保護者や地域と一体となった危機管理体制を築くとともに、年度ごとに見直ししながら、より実効性のあるものにしていく必要がある。

緊急事態対応マニュアル図（例）



# 学 校 教 育

## 市立小中学校・幼稚園における大規模地震についての対応

### 1 児童生徒の安全対策

- (1) 児童生徒が在校中に「東海地震注意情報」が発表されたときは、授業又は学校行事は直ちに打ち切るものとし、また、当日予定されている授業又は学校行事は、中止又は延期し、家の人に迎えにきてもらい家に帰す。
- (2) 児童生徒が登下校中に「東海地震注意情報」の発表を知ったときは、速やかに帰宅するよう指導する。
- (3) 児童生徒が在宅中に「東海地震注意情報」が発表されたときは、当日の授業又は学校行事は中止し、学校は、東海地震注意情報又は警戒宣言が解除されるまでの間休校とする。

### 2 防災教育

児童生徒に対する防災教育は、教育活動の一環として行うものとし、具体的実施内容は、年間教育計画で定めるところによる。

### 3 市立幼稚園

市立小中学校に準じる。

## ○地震発生時の非常配備体制

区 分	非常配備の時期	非常配備体制
第1非常配備	○震度5弱以上の地震が発生した時 ○相当規模の災害が発生する恐れがある時（発生した時）	各学校非常配備計画に基づく （例）校長・教頭を中心に、 2・3名程度在校
第2非常配備	○震度6弱以上の地震が発生した時 ○東海地震に関する予知情報（警戒宣言）が発表（発令）されたとき。又は、発表（発令）された後、地震災害が発生したとき	全教職員で対応

## ○教職員の対応

区 分	教職員の対応（非常配備）
注意情報発表時	①児童生徒在校時・登下校時 → 全教職員在校
警戒宣言発令時	②児童生徒在校時・登下校時以外
事前の地震情報がない状態で、地震が起きた時	→非常配備連絡員（正）（服）の少なくとも一人は在校すること ③上記のほかに校長が必要と判断した人員は、在校すること。

◆ 就学・奨学制度 ◆

奨学資金制度概要

経済的な理由によって、修学困難な学生に対し修学に必要な資金として年額40万円を無利子で貸付けをする。教育の機会均等及び有用な人材の育成に寄与することを目的とする。

対象：大学、短期大学、専修学校（専門課程）に在学する学生

実績：

年度	人数	金額
20	125	50,000,000円
21	122	48,800,000円
22	126	50,400,000円
23	123	49,200,000円
24	96	38,400,000円

私立高等学校等授業料補助概要

私立高等学校等に在籍する者の保護者等、授業料を負担している者に対して授業料の補助を行うことにより、公私立学校間における授業料負担の格差是正を図り、教育の機会均等の原則を確保し、あわせて私立学校教育の振興に寄与することを目的とする。

(平成25年度当初予算)

補助単位	対象人員	補助金額
12,000円 (年額)	1,775人	21,300千円

# 学 校 教 育

## 就学援助概要

経済的理由によって、就学困難な児童及び生徒に対し学用品、通学用品費、学校給食費、修学旅行費などの費用の一部を援助し、義務教育の円滑な実施を図る。

## 就学援助者数

(平成25年3月現在)

区 分	準要保護	要 保 護	計	備 考	
小学校	人員	1,410人	101人	1,511人	小学校全児童数 21,956人
	対全児童	6.42%	0.46%	6.88%	
中学校	人員	955人	46人	1,001人	中学校全生徒数 11,123人
	対全生徒	8.59%	0.41%	9.00%	
計	人員	2,365人	147人	2,512人	33,079人
	対全児童	7.15%	0.44%	7.59%	

(%は小数点第3位四捨五入)

## 特別支援教育就学奨励概要

特別支援学級へ就学する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、就学経費の一部補助をすることにより特別支援学級の普及奨励を図る。

## 就学奨励者数

(平成25年3月実績)

区 分	児童・生徒数	扶助者数	扶助率
小学校	296人	182人	61.5%
中学校	141人	81人	57.4%
計	437人	263人	60.2%

## ◆ 全 市 的 行 事 ◆

### 中学校総合体育大会（葵三大イベント）

「葵三大イベント～岡崎の教育 力・技・美の祭典～」の一つとして、市内の全中学生を一堂に集めてスポーツの実践や理解の機会を与えることにより、学校間の親睦とスポーツ精神を養う。総合開会式は岡崎市中心総合公園・市民球場で行われ、市内全中学校から約1万1千人の生徒と職員が参加し、全14種目を17の会場で実施している。



平成25年度大会テーマ「夢 大空へ 今この時君は輝く」

〈中学校総合体育大会〉

### 中学生の主張コンクール

自分の身の回りの生活や社会に関して、中学生らしい清新で建設的な意見を訴える。自分の主張を述べることを通じて、自分の考えをはっきりさせる能力を高めるとともに、社会の一員としてよりよい社会を作り出そうとする自覚を高めることを目的として実施される。平成24年度も総合学習センター大ホールで夏季休業中に開催され、市内各中学校の代表者20名が発表した。市内中学校の生徒及び保護者、一般の方も聴衆者として参加した。平成25年度も、総合学習センターで開催予定である。

### 岡崎のハーモニー（葵三大イベント）

市内全小中学校が参加して日ごろの練習の成果を発表し合う。平成24年度も岡崎市民会館大ホールで行われ、市内67の全小中学校から児童生徒約1,000人が出演し、第40回の演奏会を開催した。平成25年度は11月2日（土）に行う予定。

〈平成24年度プログラム〉

岡崎讃歌、小学校・中学校・小中合同合唱、中学生合同オーケストラ、岡崎ジュニアコーラス「ジョリフィーユ」合唱、ジュニアブラスの演奏を行う。今年度はテーマを「四季の彩り」-私の好きなふるさと-とし、岡崎の四季折々の風景を表現した おかざきの心の歌「夢ふくらませ」にのせて、ふるさとへの思いを歌と楽器による音楽を通して発信した。



〈岡崎のハーモニー〉

# 学校教育

## 理科作品展

岡崎市の児童生徒の理科への興味・関心を高め科学する心を育てるために、優秀な理科研究物や創意工夫作品を集め展示する。平成24年度は岡崎中央総合公園武道館において開催され、総数256点にのぼる児童生徒の作品が展示された。出品作品は冊子「理科の研究」としてまとめられる。なお、平成11年度より優れた作品に対して木村資生科学賞が授与されている。その他、理科教育による「科学体験コーナー」「淡水魚展示コーナー」、他に「自然科学研究機構コーナー」などが設置された。また、児童生徒が科学的な体験ができるようなブースを設け、理科ボランティアによる体験コーナーを設けた。

平成18年度から、自然科学研究機構より、発想豊かな研究に対して未来の科学者賞が授与されている。

## 技術・家庭科作品展

岡崎市内の児童生徒の意欲向上と市民の理解を深めるために、技術・家庭科学習の中で製作した各種の作品を展示する会を開催する。平成24年度も、岡崎中央総合公園武道館において開催され、中学校生徒の作品約1,200点と小学校児童の作品約800点を中心に、高等学校生徒の作品も展示された。その他、会場には、特設コーナーとして、「製作コーナー」や「やってみようコーナー」なども設置された。また、わたしの作品ショーや技能コンテストも行われた。



〈家庭科作品展〉

## 生徒市議会

岡崎市議会議場において岡崎市内の全中学校の代表が市政に対するさまざまな問題について質問・提案を行う。企画・運営は市内全中学校の生徒会で組織する生徒会連絡協議会が行う。それぞれの学校が独自に市政を学習する機会を通して、質問・提案を作成し、答弁は岡崎市各部局の部長により行われる。市内全中学校の生徒会が協力して企画・運営をし、情報交換をするなど、学校間の交流をする絶好の機会となると同時に、中学生が岡崎を見つめ考えることを通して、ふるさとを愛する心を育み、将来の有権者として市政を学習するよい機会となっている。

平成24年度の提案・質問事項は、『「岡崎子どもまつり」にもっとたくさんの子供の参加を』、『災害時に役立つ防災講座を』、『市制100周年記念モニターの設置で魅力的な東岡崎駅周辺を』など本市の実態や環境などの課題を適格にとらえたものが提案された。それが市政へのよき提言となり、市政へ反映されている。



## 英語スピーチフェスティバル

自らの考えを英語で発表できる場を提供することにより、小中学生の生きた英語力の養成を目的に実施される。学習した英語を使い発表することで自信をつけると同時に、他の発表者のスピーチを聞くことにより英語学習の意義が再認識できる。平成15年度より、岡崎市せきれいホールで夏季休業中に開催された。平成20年度から、小学生も参加して開催された。発表されたスピーチの内容は「岡崎市小中学生英語スピーチフェスティバル」として1冊の本にまとめられて、市内の小中学生の「読み物教材」としても活用される。平成23年度からは市総合学習センターで開催している。

## 造形おかざきっ子展（葵三大イベント）

市内の公立幼稚園・小中学校（附属3校とみあい養護学校を含む）の全児童生徒の作品を一堂に展示する。児童生徒がより多くの作品に接し、創造する喜びと意欲をいっそう高めるための野外展としており、平成25年度もおかざき世界子ども美術博物館の館外一帯を展示会場に、各幼稚園・小中学校が13のブロックに分かれて展示する。毎年テーマを設定し、素材や表現方法等を研究して作られた作品を展示する。また、学校単位でもテーマを設定し、地域等の独自性を生かした野外展にふさわしい自由作品も展示している。その他、会場では、木切れや木の実などの自然物や紙を材料として、実際に作品づくりに取り組む造形コーナーを設置している。



〈造形おかざきっ子展〉

## ◆ 教育関係表彰 ◆

### 教育文化賞

岡崎市の教育文化振興に寄与した、個人または団体の優れた業績及び現に続けている研究・活動を顕彰する。選考は、本人・個人よりの申請または関係機関の推薦を受け、学識経験者・市小中学校長会役員代表・竜城ライオンズクラブ代表・市教育委員会代表から組織された選考委員会により選考される。平成24年度の応募状況は個人の部が17点、団体の部が30点あり、その中から個人の部で2点と団体の部で2点が表彰された。

# 学 校 教 育

## ◆ 総合学習センター ◆

岡崎市総合学習センターは教育に関する調査研究、教育関係職員の研修及び教育に関する資料の収集を行うことにより、本市における教育の充実及び振興を図るとともに、市民の生涯学習の場として、ホール、会議室、体育室などの施設がある。

所在地	岡崎市上地三丁目12番地1（電話：54-1115）
建築年度	昭和57年度（平成22年度に研修棟の一部改修）
敷地面積	15,826.61㎡（県有地を県から無償貸与）
構造規模	延床面積 6,112.39㎡（県から無償譲渡） 研修棟 鉄筋コンクリート造3階建 ホール棟 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造3階建 体育館棟 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造平屋建
駐車場	約250台
利用時間	午前8時30分～午後9時
休館日	月曜日（祝日の場合は翌日の平日）、年末年始

### 生涯学習部門

- ・大ホール（ホール棟：定員796人）
- ・小ホール（研修棟2階：定員120人）
- ・体育室（体育館棟：アリーナ面積701.76㎡）  
※バスケットボール・バレーボール1面、バドミントン3面、卓球6面
- ・会議室2室、和室1室（研修棟1階）

### 利用状況

（平成24年4月～平成25年3月）

区分	大ホール	小ホール	体育室	第1会議室	第2会議室	和室
件数	105	173	350	111	210	75



## 教育研究部門（教育研究所）

### 1 施設内容

#### (1) 研修棟 2階

教育研究室 1（48人）      教育研究室 2（72人）

教育研究室 3（30人）      教育研究室 4（30人）

教育準備室（8人）

#### (2) 研修棟 3階

教材開発室 1（36人）      教材開発室 2（36人）

リサーチセンター

教育図書館（相談室・視聴覚準備室を含む）

### 2 業務内容

#### (1) 教員研修

中核市移行に伴う各種研修（小中初任者研修、新規採用養護教諭研修、10年経験者研修、新任校長・教頭・教務主任研修など）、現職研修部、特別委員会、自主研究サークルなどの研究団体及び個人の研修・研究活動の拠点。

#### (2) 教育研究

教育にかかわる専門的・技術的な事項及び教育情報の有効利用・提供方法などの調査研究。

#### (3) 教育アドバイザーによる支援活動

主に若手教員に対しては授業づくりや学級づくりについて、管理職に対しては学校運営にかかわる問題に対して随時、指導・助言を行う。その他に、各種研修会において講師として指導にあたる。

#### (4) 教育情報の収集・提供

各研究団体及び個人がそれぞれ保存・管理している研究活動の成果の共有化を図り、有効に活用するための体制づくり。

### 2 会場利用状況（平成24年度）

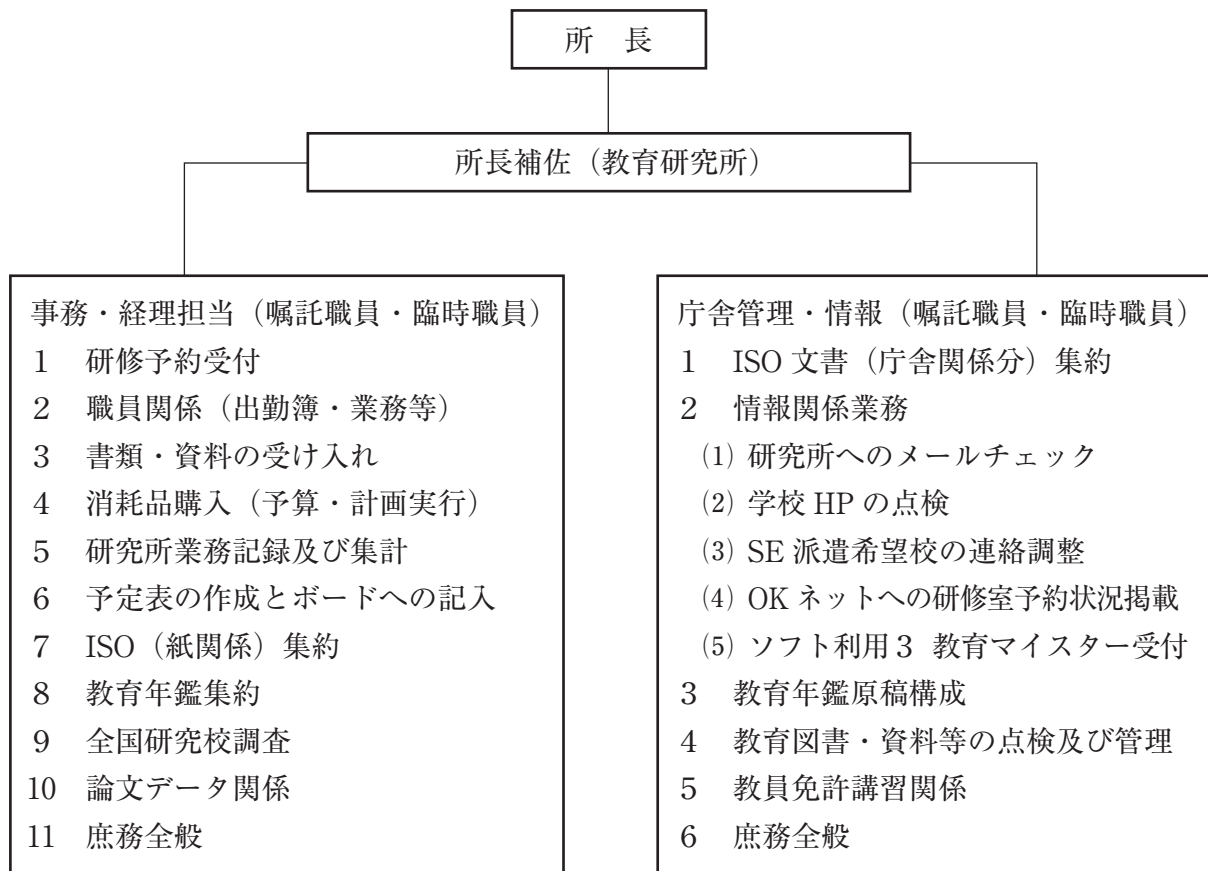
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	1,581	1,913	1,775	1,549	2,489	2,013	1,595	1,448	1,043	1,588	2,323	822	20,085

### 3 教育資料利用状況（平成24年度）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	211	190	179	288	546	201	139	145	157	103	250	68	2,477

# 学 校 教 育

## 4 組織及び事業概要



### 研修業務

- 1 教員の資質向上に向けて、研修事業の企画・運営を体系的に行う。
- 2 中核市として、研修事業の移譲を県から受け、見通しを持った計画を立てる。
- 3 教育上の今日的課題についての研究・研修活動の拠点として体制作りをする。
- 4 教育研究図書、資料の集約を図り、教育研究の推進及び研修等の活用に資する。
- 5 各教科領域のパソコンソフトの整備と活用を図る。
- 6 教科指導員との連携を図り、教員の教育活動に関しての指導助言を行う。
- 7 岡崎教師塾「允文館」の運営を支援する。
- 8 自主研修事業を実施する。

## ◆ 教育相談センター ◆

所在地 岡崎市竜美北二丁目6番地1 教育相談センター 電話 71-3201  
 ハートピア岡崎 電話 71-3207

受付時間 月曜日～金曜日 午前 9時30分から午後 4時30分  
 土曜日 午前 9時30分から午後12時00分

休 日 日曜日、国民の祝日  
 12月29日から翌年1月3日まで

### 施設概要

教育研究所の相談部門と不登校児童生徒のための適応指導教室であるハートピア岡崎が合併して、平成22年1月4日に開所した。

「そよかぜ相談室」では、子供の健やかな成長を願って、教育に関する相談に応じ、共に考えながら問題の解決を図っている。相談の対象は、岡崎市在住で来年度小学校へ入学する子供・保護者と、岡崎市内の公立小中学校の児童生徒・保護者・教職員である。

「ハートピア岡崎」では、通所が可能な児童生徒に対して学校生活への適応性を高め、学校復帰ができるように指導・援助している。また、通所ができない児童生徒には、家庭訪問や電話による相談の対応も行い、人と対面することに抵抗を感じる児童生徒には、手紙やメール等による相談活動を行っている。

### 業務内容

#### 1 「そよかぜ相談室」

##### (1) 不登校に関する相談

- ・不登校傾向、不登校の児童生徒の家庭・学校での養育・教育に関して悩む保護者からの相談
- ・不登校傾向、不登校の児童生徒の指導や登校支援に悩む教師からの相談
- ・ハートピア岡崎への通所や登校支援員による支援に関する相談

##### (2) 就学に関する相談

- ・就学先の選択に関して悩む保護者からの相談
- ・在籍する子供の就学先に関する学校からの相談

※その他、特別に教育支援の必要な子供に関する保護者・教師からの相談

##### (3) 特別支援教育に関する相談

- ・家庭・学校での養育・教育に関して悩む保護者からの相談
- ・児童生徒の指導に悩む教師からの相談

#### 2 「ハートピア岡崎」

##### (1) 通所指導

- ・学校復帰に向けての自立支援と適応指導
- ・カウンセリング

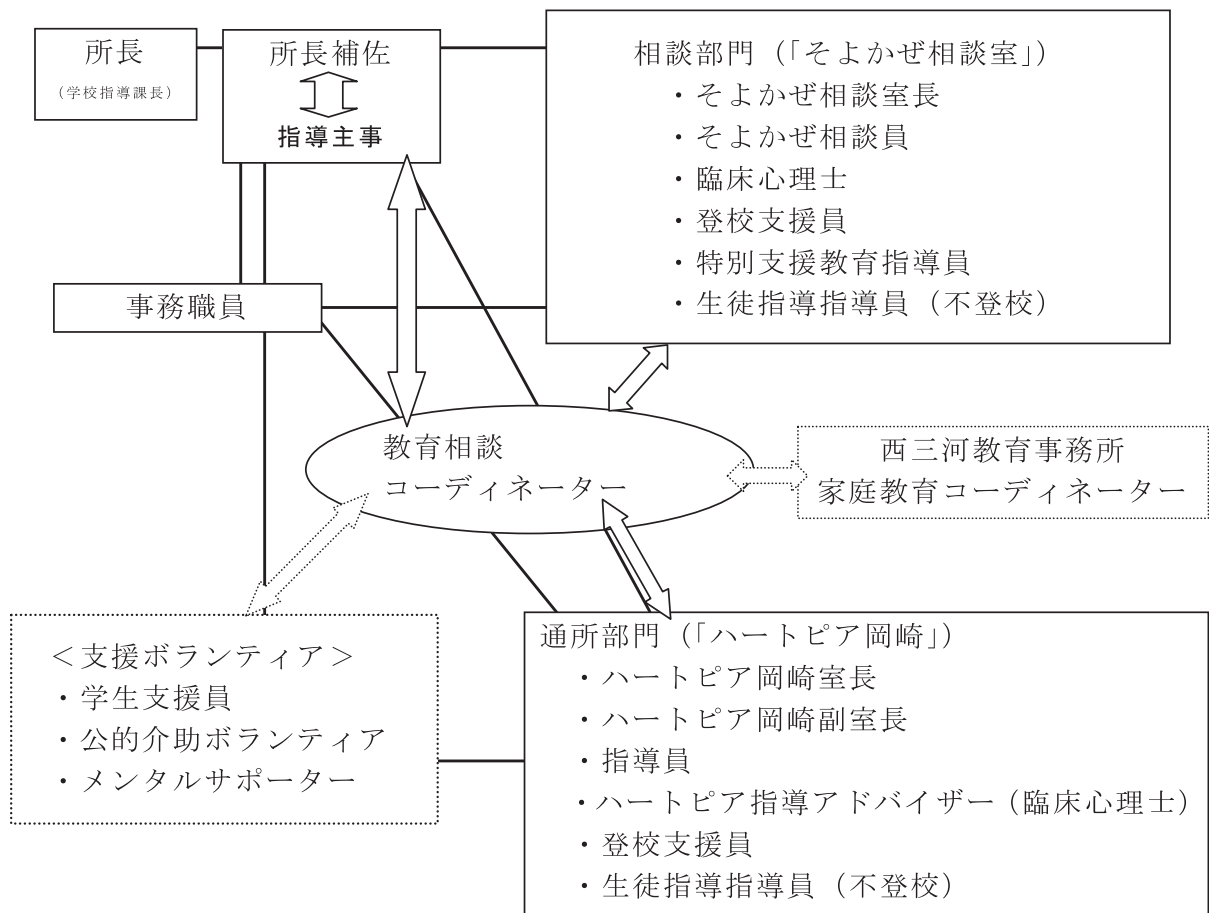
##### (2) 登校相談支援活動

- ・学校を休みがちな子供に対する相談と支援
- ・学校現場との連携を基にした登校支援活動



# 学 校 教 育

## 教育相談センターの組織



## 教育相談の状況 (平成24年度)

月	相談・支援状況								ハートピア利用状況				
	ハートピア		臨床心理士		そよかぜ相談室相談員		登校支援員		登録生数	通所数	面談	見学	訪問相談
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数					
4	164	190	128	169	37	67	130	267	11	63	16	3	7
5	104	121	117	155	60	109	148	314	25	278	18	2	2
6	205	211	142	173	85	161	161	304	28	297	22	4	5
7	162	167	145	182	64	128	100	192	28	253	31	2	8
8	21	21	132	191	83	128			28	43	4	0	0
9	160	180	147	198	159	236	156	277	33	299	12	6	10
10	221	235	147	187	128	199	201	347	37	493	11	3	2
11	199	225	160	210	82	104	179	315	41	452	6	4	12
12	243	265	127	156	113	144	121	207	43	296	47	4	22
1	179	191	141	175	85	105	153	294	47	358	12	0	12
2	222	241	161	196	86	112	163	313	47	440	9	1	17
3	210	228	124	151	70	85	127	258	47	159	10	0	35
合計	2,090	2,275	1,671	2,134	1,052	1,578	1,639	3,088		3,431	198	29	132

## ◆ 学校給食センター ◆

### 学校給食センター施設概要

センター名	開設年月日	敷地面積	建物面積
北 部	平成19年 4 月 1 日	11,691㎡	5,391㎡
東 部	昭和49年 4 月 1 日	5,658㎡	2,112㎡
西 部	昭和53年 9 月 1 日	6,339㎡	2,490㎡
南 部	昭和57年 4 月 1 日	4,604㎡	2,021㎡
計	—	—	—

### 学校給食協会等職員

(平成25年 4 月 1 日現在)

	協 会						市	県	委託	合計
	事務局長	事務員	汽かん員	調理技能員	技能員等	用務員	所 長	学校栄養職員	運転手	
北部センター	0	2	1	6	67	2	(兼務)	3	10	91
東部センター	1	10	1	6	50	2	(兼務)	3	7	81
西部センター	0	2	1	6	41	2	(兼務)	3	7	62
南部センター	0	2	1	6	35	1	(兼務)	3	6	54
単独調理校	0	0	0	0	17	0	0	2	0	19
計	1	16	4	24	210	7	(1)	14	30	307

理事長、常務理事の各 1 名は含まず

うち栄養教諭 7 名

学校給食センター所長は教育委員会にて執務

### 年度別実施状況

年度	給 食 回 数			年 間 給 食 回 数			
	幼稚園	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校	合 計
18	175	190	187	74,391	4,272,277	1,972,629	6,319,297
19	175	191	191	74,659	4,198,095	1,978,697	6,251,451
20	172	189	189	75,520	4,191,909	1,970,003	6,237,432
21	171	187	185	75,550	4,114,870	1,937,355	6,127,755
22	169	188	186	74,343	4,146,752	1,939,337	6,160,432
23	168	189	187	72,980	4,201,972	2,064,992	6,339,944
24	164	188	188	73,859	4,168,501	2,109,870	6,352,230

### 年度別 1 日当りの給食数

年度	幼稚園	小学校	中学校	合計	年度	幼稚園	小学校	中学校	合計
15	454	22,580	11,628	34,662	20	542	24,030	11,839	36,411
16	486	22,694	11,355	34,535	21	545	24,096	12,079	36,720
17	491	23,603	11,567	35,661	22	537	23,926	12,056	36,519
18	530	23,700	11,635	35,865	23	547	23,678	12,061	36,286
19	535	23,751	11,739	36,025	24	539	23,496	12,292	36,327

# 学 校 教 育

## センター別給食実施状況（1日当たり）

（平成25年4月19日現在）

センター名	区 分	幼稚園	小学校	中学校	その他	合 計
北 部	校 数	0	14	6	1	21
	学級数	0	238	102	2	342
	食 数	0	7,053	3,354	48	10,455
東 部	校 数	0	14	5	2	21
	学級数	0	211	85	14	310
	食 数	0	5,997	2,904	402	9,303
西 部	校 数	3	8	3	1	15
	学級数	23	167	68	2	260
	食 数	527	5,326	2,340	41	8,234
南 部	校 数	0	7	5	1	13
	学級数	0	152	94	2	248
	食 数	0	4,641	3,103	43	7,787
合 計	校 数	3	43	19	5	70
	学級数	23	768	349	20	1,160
	食 数	527	23,017	11,701	534	35,779

## リクエストランチ

児童生徒が自ら選んだ献立を実施することにより、学校給食に対する興味・関心を持ち、望ましい食生活の実践への意欲の高揚を図る。募集対象校は1年で約20校とし、採用された献立は次年度のメニューに反映させる。

各学校は、今まで実施した献立の中から、好きな献立を選びリクエストしている。平成24年度のリクエストには主菜（食缶に入れるおかず）に、カレーシチュー、さばのみそ煮など、副菜には、唐揚げ、ビビンバなどのメニューに人気が集まった。